- B35** 東南アジアのブユ（5）インドネシア国スラウェシ島の *Simulium* 亜属の種類相
高岡宏行（大分医大、医、感染予防医学）
Simuliidae of Southeast Asia (5) Fauna of subgenus *Simulium* of
Sulawesi, Indonesia
Takaoka, H. (Dept. of Infectious Disease Control, Oita Med. Univ.)

1991-1994年に文部省科研費国際学術調査（代表：宮城一郎教授）の一環として、インドネシア国スラウェシ島においてブユ相の調査をおこなった。その結果、*Simulium* 亜属では16新種を含む18種を得た。このうち既知の2種を含む7種は主にフィリピン群島やボルネオに分布する *melanopus* 種群に分類され、また残りの11種はおのの近似種で新しい種群を形成する。後者の種群は成虫の生殖器の形態では旧北区や東洋区大陸部に分布する *variegatum* 種群にもっとも近似するが、成虫の体色が黄色のものが含まれたり蛹の呼吸器官が通常の糸状から球状のものまで変化に富む特徴をもつ。本種群はこれまでのところ近隣の島々からは見つかっておらず、スラウェシ島内で種分化したものと思われる。*melanopus* 種群の7種は1種を除いて他地域の種とはかなり異なる形質をもっており、同様に本島において種分化をとげたものと推測される。

- B36** フユイエノミバエ（新称）による冬期家屋内への大量侵入
林 利彦[○]（国立感染症研究所・昆虫医科学部）・小松 均・西田和美（神戸市
環境保健研究所・病理部）・高井昭（神戸市北保健所）・中嶋智子（京都府保健
環境研究所・環境衛生課）・R. Henry L. Disney（ケンブリッジ大学）
Mass invasion to human dwellings by *Megaselia meconicera* in winter
Hayashi T., Komatsu H., Nishida K., Takai A., Nakajima T. and R.
Henry L. Disney

1996年から1997年にかけての冬期、関西地方においてノミバエの1種が多数人家内に侵入し、不快昆虫として問題となる事例が発生した。一般にノミバエ類は夏期に多く見られるハエであり、冬期に多数出現し、家屋内に侵入したという報告はこれまで国内では無い。この種は黒色小型のノミバエで、*Megaselia meconicera* (Speiser, 1925) フユイエノミバエ（新称）であった。本種はヨーロッパからアジア、北米大陸まで広く分布する種であり、日本からはSchmitz (1957)が東京から記録しているが、その後報告は皆無である。神戸市周辺の事例では10月頃より侵入が見られ、11月下旬にピークとなり2月頃には終息した。尚ヨーロッパでも冬期本種が家屋内に大量侵入する例が報告されている。(Scott, 1951; Colyer, 1954).